

紫 笥



文京高校同窓会報 No. 4

紫 筍 第四号 目次

伸びゆく学校	稲崎修平	1
会報第四号を送る	静谷晴夫	2
最近の感想	奥田行信	4
三菱グループ……森 理(6)なまえのない会……編集部		
(7) あゝプール 中村昌男(7) 野球 文京チームの近況		
……高木 巖(8) 演劇 河童グループ 榎本幸三(9) 時		
というもの……浅野麗子(10) 近況 A……佐藤宜子(10)		
近況 B……久保享子(10)		
海外だより		
ニューヨークにて	松本素直	11
アメリカ雑感	嶋谷三郎	12
私たちのクラス会		
第十期卒業「B組」	西川 仁	17
特別寄稿		
課せられたる課題……下川 浩(18) 運動部	中村秀男(18)	
文化部……細谷理乃		
屋久島登高記	近藤喜代太郎	20
同窓会名簿訂正		22

東京都立文京高校学校同窓会会計報告

昭和33年4月1日—34年3月31日の間会計次のとおりです。

昭和34年4月1日

委員長	静谷 晴夫	㊟
会計委員	西岡 弘	㊟
監査の上正確であることを確認します。		
会計監査	末 正明	㊟
	高橋 昌平	㊟

1. 財産目録

貸付信託	100,000円
現金	127,914円
合 計	227,914円

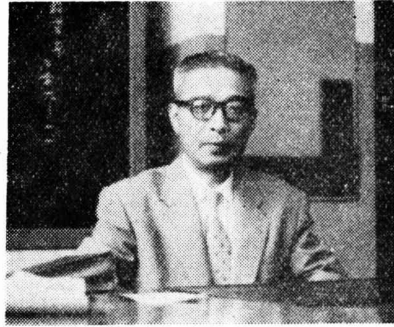
2. 収支計算書

寄 入	入	出	差 引 残
会 金	68,421円	19,043円	481,199円 (収入)
利 子	96,000円	36,565円	
收 入	9,918円	31,006円	- 253,285円 (支出)
前期繰越	37,273円	43,315円	
	269,587円	78,115円	
	481,299円	45,241円	227,914円
		253,285円	

註 末監査より物件会計についても計上されたしとの発言があつた。

伸びゆく学校

稲 崎 脩 平



わが校の校地内にある、旧大塚中学校の敷地の返還については、多年にわたり、わが校の一大問題として、その解決に努力して参りましたが、ようやく効を奏して、われわれの要望が、ここに達成するはこびとなりました。すなわち、先般豊島区長から本年八月末までには、旧大塚中学校の校舎を撤去する旨の連絡がありました。ここに到達するまでの経緯について、詳しく述べることはやめますが、特にPTA会長副会長の御努力と、関係都会議員の御援助のたまものであることを申し上げ、深く感謝してゐる次第です。返えされた土地の利用については、プールの附帯施設、排球、籠球、庭球のコースの増設、周囲の植樹など、生気のある運動場にしたしたいと思います。

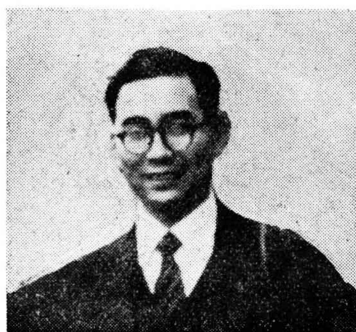
本校への入学志願者は、年々増加しておりますので、今年から一学級の増募となり、一学年の定員は三五〇名（七学級編成）となりました。これにともない、普通教室六ケの増築がきまり、図書館の東側に接続して、今年九月に着工、来年三月までには竣工する予定です。これによって、今まで、普通教室の不足で特別教室を使用していたのが、全部解消されます。しかし、この増築によって、校舎の全体系が、整備完了するわけでなく、さらにそのつぎの増築によってそれが実現されることと思いません。その他定時制の完全給食ための料理室（二十坪）が、裏門附

近に本年度内に建設されることとなり、これに関連して、在来の食堂の拡張も考えねばならぬことになりました。

変りゆく母校の姿は、その進展を物語るものとして、後輩のよりよい育成を期待されることと想像しつつ、将来の計画に思いをめぐらしているのです。学園というにふさわしい緑につつまれた静かな環境、近代的な瀟洒な校舎、そこに流れる自由と親愛とアカデミックな雰囲気、それを単なる夢に終らせたくないのが、わたしのいまの気持ちです。

会報第四号を送る

会長 静 谷 晴 夫



今年で会報も第四号となった。第一号をタブロイド版で出した頃を考えてみると感無量である。そして私の任期も一年、つつ延ばされて今年も務めさせて頂くこととなった。勤務地が東京から離れているので何かと不便ではあるが、一期生始め先輩の方々がよく指導して下さい、若い幹事諸君が頑張っていて呉れているので、何とかやっけて行けると思う、亦やっけてゆかなければならないと思っている。

昨年、会報及び名簿の発行新旧校長の歓送迎会、会則の一部変更と、同窓会始つて以来の盛り沢山な行事を一度に行つてみて、よく出来たものだと言ふと今更乍ら幹事諸君に感謝している。

本年三月、同窓会入会金の値上が学校から承認され本年より実施となった。これによつ

て会の運営が大分案に進めることが出来る様になった。併し年々増加してゆく会員をかゝえて、毎年会報を発行し三年に一度づつ名簿を改訂してゆくのは容易なことではない。今後の同窓会のあり方、運営の方法等、改めて検討すべき段階であると思う。ここに会報・名簿の発行にあたって毎年、御世話になっている川上光男氏に心から感謝する。

それで一つの試みとして今年度は会員相互の親睦を図ることに目標をおくことにして会報にも弘報的な色を濃くして貰った。会員に同窓会及び母校の現況を知らせ、亦一人でも多くの会員の声をきき、後輩たる在校生との結びつきを一層緊密にすることに力を注ぎたいと思う。

この会報が諸兄弟のお手にとゞくのは初秋の頃と思うが、その時までには亦その時からでも、会員相互の親睦と云う会第一の目的に向つての運動が起りそれと共に同窓会の活動が更に一歩前進することを希望する。

なお、来る十月八日から十一日に、(但し十日は休み)文化祭及び運動会が開催される。卒業生はいつでも参加できるから是非御出席下さい。

ダンス講習会お知らせ

(国電板橋駅より2分)

場所 板橋ダンス教室

日時 毎週 日曜日 11時～13時

講師 新制3期 朝岡武男氏他

有資格者

申込先 豊島区西巢鴨三―八五八

文京高校同窓会企画部

会費 一ヶ月 百円

開始期日は、おつて申込者へ直接に連絡いたします

最近の感想

奥田行信



構な記念を頂いて今更乍ら感謝しております。

処でわずか三年六ヵ月にしかならぬ孫の教育すら満足に出来ぬ今の僕には、幼稚園の先生としての資格すらないようですが、相変らず至極くなものですから、日曜日とかウィークデーの夜分などの卒業生の会合には遠慮なく出かけて、勝手な熱を揚げておりますので少々迷惑を掛けておるかもわかりません。遂い半月ばかり前にも九段高校の古い教へ子のクラ

退職してから丸一年五ヵ月、徹底に孫の保育に恵念して来たように思うのですが、仲々うまく行かないのはほと／＼閉口しております。幸い病気だけはさせないで来たのですが、年寄のあまさが何処かにあるのでしょうか、今少し「きかん気」の頑張り屋であつて欲しいと思ふ位臆病で弱虫の処が出来て来たようです。尤も少し本気になつて時たま、叱りますと「お爺ちゃん、こわい顔をしてはいや、こわいお爺ちゃん」は彼処におるではないか」と諸君から記念に頂いた肖像画を指差しますので少々私の方が面食つてしまうのですが、この孫にまで或る意味の緊張感を与へる結

ス会に出かけ、此の四月当選したばかりの岡山市長に向つて、「平和な社会と幸福な人生は情愛の精神から……即ち誰よりも質素に誰よりも勤勉たらんと市長自から……」といふ氣になつて一席ぶつた処まではよかつたのですが、解散して帰



る時になつて、「先生、僕のこの短靴はもう二年近くも履いているゴム底のビニール製品ですよ」と笑ひながら見せて呉れた時には。流石の僕も、これは釈迦に説法だつた、随分失敬な事をしゃべつたなあ、と恐縮し乍らも心嬉しく彼の健闘を祈らずにはおれなかつたのです。勿論四十七才と云う相当の年輩でもあるので、市長になつてもビニールのゴム底靴でのごく東京まで出かけて来るのです。が若い文京の卒業生の諸君にはまだ年齢の上で少々無理な注文かも知れませぬ。

扱て矛盾多き世の中かとも思はれますが、お互に、出来るだけ生き効のある人生を目指して大いに頑張りましょう、蔭ながら諸君の健闘を切に祈っております。

八月二十八日

なまえのない会



が、とうていすばらしい名前が浮ぶ筈がありません。そこで黒岩先生が〇林会とやったらどうか大ぜいのなかには〇の字くらい考えられる能力者がいてもよさそうなもんだという大名案を思いつきました。之は人間のお産でいうと胎児が下半分出したかっこうですから(どうせ変った連中の事だから逆児にきまつている)足の誕生をお祝いして昨年十一月上野御徒町の「千代香」なるところで祝賀会を開きました。

この会へ入会する為には会員の熱烈なる紹介を要するそうで、目下入会者を集めているようです。会員の主なところは市立三中時代に入学して本郷元町の仮校舎で卒業した人が多く、文芸関係の仕事に従事している人達によって結成されている会のようです。

世話人を見ると渡辺剛章、仙場敬二、宮田親平の三氏の名前があり、映画、報道関係の人が多く、変ったところで三遊亭金遊氏も入会されているようです。現在会員は、

渡辺剛章(旧一)、広沢雄一郎(旧三)、久井健一郎(旧四) 仙場敬三(旧四) 中上堯(旧四) 高里良友(旧四) 長島弘一(旧四) 若林成佳(新二) 宮田親平(新二) 大谷唱二(新二) 末利光、柴崎英一、阿部志馬、木越孝治

常石太郎(新三) 河野一郎(新二) 伊藤武(旧四) 小林哲夫(旧四) 遠藤武男、牧孝昌(旧四) 大野緑一郎(新二) 関根尚雄(新八)の諸氏のようである。

(編集部)

“あゝプール”

中村昌男

我が母校に昨年プールが出来た。大変喜ばしい事である。顧り見るに私の在校中どれ程これを熱望し念願した事だろう。私だけではない。当時を共に過ごした仲間の口癖であった。//ああ我々の学校にもプールが欲しい。//と。それが我々なき今日やっと実現された。昭和二十一年の終戦どさくさに豊島中に入學した私は文京高卒業迄水泳部に籍を置いた。今、当時を思い出して見たい。プール無き水泳部。

当然肩せまき間借りの身であった。元町小学校のプール、こは対校感情問題からたちまち追払らわれてしまった。変った東大室内プールも水、設備の不足の折から各校の借用

この会は黒岩けんいち先生のきもいりで、発会のような形になって一年ぐらいたちます。

せめて名前くらいつけておこうと黒岩先生や世話人に指名された連中が考えたのです。

殺泳で我々としての常時練習は不可能であり従って部としての活躍もなく単なる遊泳会に過ぎなかった。現在、母校で教鞭をとって居られる西岡先輩が当時のリーダーであった。

文京高校と名の改まる迄この状態は続き、いずれも名のみの部であった。二十四年に四期卒の石川、今井、山口君等と新水泳部とも言うべき団結ある組織を得て教育大学プールを我が校に借用せられる様要請した。困難な条件の下に許可を得、少なき部員に個人の負担は大きかった。借用代、薬品代、コーチ代と年額五千円弱の予算では毎日の借用はならず週二、三回程度であった。だんだんと部員も増え又、正式なコーチを受けるに及んで部は充実していった。女子の部員も十名程になった。教育大プールは飛込み用として深く、初心者として不向きであり、従って後の入部者は殆んどが水に親しむ河童連であった事が除々ながら充実せる原因であった様だ。或る時は千葉に合宿もし、又、他校へ遠征もした。

対校試合も数を増して来た。だが、教育大に於ても多くの学校が借用する為その日の時間は制限されて、満足なる練習は出来ず、逆に発展して行く部のエネルギーは必然母校に

プール設立を願う声に高められた訳である。私の時代からバトンには師田、尾根山君等へと移っていった。備品も揃え、そして記録も向上していった彼等は私達より更に設立を望んだ事だろう。序に附加するが後輩で平泳ぎのマスコットの存在であった郷君が後の東大在学時富士山で遭難死された事は大きな悲しみである。ともあれ、現在、我々の夢が母校に設けられた。今となつてはプールの発展、いや後輩の発展を望むに過ぎないが、この老いばれ河童、現在の在校生が心から羨しくて追、旧部員の消息を御知らせ下さい。

(新住所) 新宿区上落合二ノ七八五

中 村 昌 男

報告

同窓会員は生徒遊泳中参加出来ますから学校に申し出て下さい。

(新制五期)

野球 文京OBチームの近況

高 木 巖

よくも、野球が普及したものだ。この野球

を愛好する者の集いとして結成され、会員は我々昼間部卒業ばかりでなく、夜間部や職員をも含めた所に他のサークルに見られぬ特色がある。

年間約二十試合、昨年は十六勝四敗の成績今年は七月で四勝二敗と昨年の半分の敗数を稼ぐ調子の悪さである。

他にOBチームのあるのは、早稲田実業と日大付属豊山高校にあり、豊山高とは昨年春行い、田中(十期現早大野球部)が投げ四球一(二盗失敗)の準完全試合を演じ、一A対0で勝ち、早稲田実業とは、昨秋、区大会の準決勝で顔合せする予定が、一回戦で早実チームは敗退し。惜しくも機会を逸してしまった。

中中中中中中中中	中	中中中中中中
三三三三三三三三	繩	二葉城一淵和
橋村鳥京和九六三鴨	京	京葉城一淵和
板志飛文道文中志西	沖	文紅茨板岩道
(定)(8)(11)(8)(8)	(職)	(職)(8)(定)(9)(9)(10)
麻田根木矢田谷川林	屋水上田谷沢橋中	
当岡関高松宮細石小	照清井富細中高田	
二三遊捕中一左右投	(右)(右)(三)(一)(左)(左)(中)(投)	

五期の細谷氏(事務室でお馴染の)を中心に今年卒業の十一期の関根君まで、縦の関係も、先輩、後輩という、堅苦しいものではな

く、兄弟、友達と言う様な和気あいあいとした雰囲気込まれている。

試合のあい間、休日を利用して、今年の正月は三ツ峠へ、又今夏は上州の大峯沼へキャンプに行ったり、時にはテーブルを囲んで談じたり、こうした中に人生感を論じ、人間性を理解し、個性を豊かに伸展させながら、他との調和を失わず、「豊かな人間性」を育てる所に皆が睦み合い、深い友情を確立して行く事が皆の願いでもあるからだ。

戦後、野球の普及に伴い街には様々なチームが雨後の筍のように出来た。併しその多くは、単に九人集って試合するだけだが、我々の会の如く、同じ屋根の下で暮し、「野球を通しての親睦を！」と言うのを強く打ち出しているのは少ないのではないかと思う。

(新制八期)

演劇 河童グループ

榎本幸三

僕達の仲間を「河童グループ」として紹介して見ます。名前を聞けば泳ぎ仲間のようですが、実は文京四期と五期の演劇部の連中、その顔ぶれは四期の中山喜美、中村弘、

福本健次、島田正俊、鷺田吉秀、横瀬清二、私、四期、松本素直、山本泰子、酒井節子、渡部洋子、大郷節子、以上十二名。現在は定期的な会合を持つと言うこともなくグループとしての活動は特になくなりましたが、その反面一つのグループであったと言う意識は深まって行く様です。ともあれ僕達は良き時代に文京で学び、良き仲間を得たことを誇りとも喜びとも感じています。何時の卒業生でも自分の時代が悪かったと思う人はいないでしょう。戦後の混乱も一段落し、朝鮮動乱に起因するとは言え、景気の回復による世相の

明るさ、又入学就職地獄はすでに始まっていたものの文京高等学校がまだまだ誇り高き高等教育の学舎であり、自治、文化、体育の諸グループが目覚まし活躍をした時代に籍を置いたことは何とも僕達は恵まれていたと言えるでしょう。又四期の連中は豊島中学時代に三年間の下地を持って文京高校に至ったと言うことも大いにその親交を深めた由縁でもあったわけです。そうした力の結集が赤い面なる無名作家の演劇を百余校参加の東京都のコンクールに出し六位入賞の栄冠を勝得賞状を持ち帰ることを可能にしたと堅く信じています。その時のメンバーの過半数で、卒業

後「日本の河童」と言う演劇を同窓会の総会の席上で演じ河童グループなるものを育て上げたわけなのです。

その後は中山、中村、福本、榎本が早大の劇団「ごだま」に入団し、文京グループの異名を付けられる程の大活躍をし、島田が明大の長唄研究会でその名をほしほしに、又横瀬が教育大を卒業後大森第八中学で国文を教える片わら放送劇の指導をするなど、各個の学籍の違いから再び演劇をやる機会に恵まれなかったけれど、グループとして冬はスキーに、春秋はハイキング、夏は海へと回を重ね、或る時は読書会、或る時は映画、演劇の感想会と常に一歩前進の心構えでグループが動いてき動いて行っている。又昭和三十年の十二月に五期の松本素直が米國テネシー州タスカラム大学に留学した後に、彼に声の便りとしてテープに録音したものを送り、又送り返って来たものを聞くことをグループとして続けて来、すでに送ったものが六便、今度返って来るものが五便と回を重ね、多少マンネリ気味になりつつあるけれども。渡部、大郷、中村と三人の新婚組が出来た。僕達のグループに取ってはグループの集る機会として最も大切な仕事として今後彼が帰国するま

で続けたいと思っています。近い内に我河重グループも結婚組が多数になることでしよう。その時はホーム単位のグループとして又性格の異ったグループとして再び活発に動けると思っています。良き苗床の苗は雨風に負けず立派な穂をみのらすことでしよう。

(新制四期)

“時というもの”

淺野麗子

連日の暑さに参り、涼を求めて、上野不忍ノ池の納涼大会に出かけた。幾百幾千かのボンボりに映えて、池の蓮の葉が夜目にもくつきりと見えた。軒をならべている出店をのぞきながら、歩いて行くと、ふと前方の暗がりの中に、クルクルまわっている廻り燈籠が目に入った。この回転していく影絵を眺めているうちに、今の社会が、この燈籠のように、全く慌しく過ぎ去ってややもすると時の立つのも忘れさせてしまいう世の中であるような気さを感じる。このような中で、毎日私たちに少しでも規律ある生活へと導いてくれるものに、刻々と一時の休みもなく時を刻む時計がある。

私は現在その時計(舶来)貴金属を扱っている卸商に勤めております。完成された製品を輸入元より仕入れ、これを「タイム・グラファー」という機械にかけて、各々の精度を調べ、あまり姿勢差のある物は直ちに返品し、機械、ケース、文字板(支ともいふ)などの完全なものだけが、再度の点検の後町に売り出され、ここで皆さまの腕にようやく収まるわけです。このように私共の手を経て無事皆さまの手に行き渡り、正確な時を告げる仲立ちをしておる事に誇りを感じております。

今日も又、カチ、カチ、カチ……(聞こえませんか)と一定の間隔で皆さまのために、動きつづける事でしょう。

(新制十期)

近況 A

佐藤宜子

(近況……どの程度の事を書いたら宜しいのでしょうか? 取りあえず)

文京三年の初夏、進学が就職かの問題で父母ともめたのを思い出しました。もう六年も前のことになりました。女のくせに、女でも

と……結局、女子美術の服飾科を経て、日本橋高島屋の婦人服部へ落着きました。

めまぐるしいファッションの波に追いかけて二年。一人一人のお客様に合うデザイン、生地、寸法……はじめはむずかしくて、洋服や釦の夢ばかりみました。でも出来上がった服を着て、見違える程綺麗になった同年位のBGや、着こなしの上手な中年婦人の嬉しそうな顔等を見ると、何とも言えない楽しさがこみあげて……

将来の夢は、やはり小さくてもいいから自分の店を持つてみたい。

資金、技術、信用……とても不可能な夢です。でも何か自分の腕に残しておけるものを掴むまで続けたいと思います。

もう年だから結婚々と父母が騒ぎますけれど、級の方達の経験談をお聞きしてからにした方が等と虫のよい事を言っております。

(新制六期)

近況 B

久保享子

前略、現在は「主婦と生活社」に勤務して

海外だより

ニューヨークにて

松本素直



タスカラム・カレッジの正門、夜になると
門燈がつききれいです。「蝶ネクタイなんか
して」なんて誰かに文句をいわれそうだけど
こちらでは普通のネクタイとの割合が六分四
分位で多くの人が蝶ネクタイをしています。

日本を出たのが一九九五五年の十二月、も
う滞米生活もかれこれ四年になります。

最初は何もかもめずらしく思えたものです
が、一切のものに慣れてしまった今になって
みると、すべてが、ごくあたり前のこととし
か感じられず、それに伴って、過去と現在の
生活感情のコントラストもきわめて曖昧な
ものになって来てしまっています。自分が変
ったと言ひ意識すら時と共にうすれてしま
うと言ひことは言いようもなく淋しいもので
す。Y M C Aホテルの真四角な小部屋のパ
ッドにねそべって、ラッキーストライクの真白
な煙が静かに天井に向かってひろがってゆく
のをみつめながら、言い知れぬ不安と期待に
興奮したサンフランシスコでの最初の夜のこ
とを何か遠い昔のことに思い出ししま
す。

この度、同窓会誌より、何か書いてほしい
との御連絡をいただきましたが、限られた字
数の中で、あまり多くのことをお話しするこ
とは出来かねますので、この四年間、私が一
番強い反応を示し続けて来た問題、アメリカ
に於ける人種差別の問題について、日本人で
ある私が何を見、どう感じて来たかと言うこ
とを少しお話し致したいと思ひます。

私がこちらへ来てからも、アラバマ州立大
学での黒人学生しめ出し事件を皮切りに、ア
ーカンソー州リトルロックの小学校に於ける
黒白共学問題を中心にする大騒動、フロリダ
州タラハシでの白人による黒人女学生暴行事
件、ミシシッピ州でのパーカーリンチ事件
と表面にあらわれただけでも、おびただしい
数の事件が起きています。事の善悪に対する
私の意見を今更のべる必要もありません。
外国人である私は、白人の黒人に対する感情
的な、あるいは生理的な嫌悪感の底知れぬ深
さを想像して身振いするばかりです。白人の
持つ人種の優越感、その多くの場合が彼等
自身の無知から来ているものだけに何とも鼻
もちならない不愉快なものです。もちろん彼
等は我々黄色人種に対しても絶対的な優越感
を持つていることは明らかです。ところで、
白人が黄色人種に対する場合は、単なる優越感
のみを持って接するのに対して、黒人に対す
る時はその優越感に更に嫌悪感(あるいはそ
れに準ずるもの)が加わるので、彼等の態度
は、黄色人種に対する場合とはおのずから違っ
たものになって来るものと思われます。

しかし我々日本人は、黒人に対して、それ
がいかなる意味のものであるとしても、何ら

かの形で優越感をいだいてはいないでしょうか？これは米国内にいる私個人にとつては、大きな問題です。もし、バスが混んでいて、後部の黒人座席しかあいていない場合（どこからどこまでが白人と云うはつきりした区別はありませんが）何も考える必要もなく黒人の席へかけますが車がすいている場合、黒人の席へかけることを、無意識のうちに避けようとはしていないだろうかと自問してみても、私にははつきりと答えられるだけの自信がありません。これは微妙な問題です。自分が白とも黒ともはつきり自覚せずに何となく白に近い方の行動をとるところに私の黒人に対する優越感がひそんでるように思えるのです。せめて、理性を持って自分の中にひそむ優越感をコントロールしようとしているところに、勝手ながら私は自分の良心を認めています。

たのはシカゴでした。又、「アメリカの中で、最初の黒人市長が出るのはここに違いない」と言つて、ひどく心配しているのはロスアンジェルスの人達です。すべては程度の問題にすぎません。

身近な問題、例えば、私のいる学校にいる黒人学生二人が、女子寄宿舎主催のダンスパーティーで踊ることを拒否された問題や、学校の劇団、マックスウェルアンダーソンの、「ザ、ウィングレス・ヴィクトリー」を上演した時のことなど、お話ししたいことはまだまだたくさん残つておりますが、すでに限られた字数をはるかに越えていますので、この辺で、黒人側の様子を少しお話して、しめくりたいと思います。

私の唯一の黒人友達であるジョンと時々黒人のバーへ飲みに行きます。そして、そこでも私は奇妙な印象を受けることがたびたびあります。黒人のバーには、ほとんど例外なく、「ブラックエンドホワイト」と言う有名なスコッチウイスキーがおいではありません。その他、ジョニーウォーカー・ブラックレベルとかホワイトホースとか、とにかく黒、白が名前につくものはすべてシャットアウトと言う現状です。こんなところにも私は彼等黒

人が、いかに色に対して神経質になっているかを見るような気がいたします。「EBONY」と言う黒人雑誌は、メジジョーアリーの黒人選挙の数が百名を越えた、黒人全盛の時代近し」と言つたたぐいの優位に出て来た黒人の様子のみを記事にしております。

アメリカに於ける人種問題の根の深さは、はかり知れるものではありません。すべは、こおりついた両者の感情が解けて来るまでは解決出来る問題ではありません。両者を知れば知るほど、それがいかに困難なことを認めざるを得なくなりません。アメリカに白人と黒人が共存する限り永久に消えることの無い問題であると断定しようとするのは私だけではないと思います。

後日、又、特に関心を寄せられている問題がありましたらペンを取りたいと思つて

六月三日、ニューヨークにて
(新制五期)

アメリカ雑感

嶋谷三郎

◎一路終着地マディソンへ
大陸横断列車「シティ・オブ・サンフラン

シスコ」はさまざまな乗客を乗せて、サンフランシスコの対岸のパークレイを発車した。思いきって高価な特等車の切符を買ったので、なかなか快適な乗心地である。その内部装飾は、まるで一流ホテルのロビーにでも居るかのようだ。まわりの客種もゲンと上等、そのなかで自分が唯一の東洋人だったので最初はこちろもかなりの緊張をおぼえたと見えて、むこうの方でもなんとなくジロジロと見ている。しかしこんなならめつこは永続きしなかった。俗にいう旅は道連れ世はなんとやらで、お互いの間に友好な雰囲気は漂い始める。隣りに席をとった紳士、どう見ても大学教授あたりと想像したくなるような身なり。ところがこれが床屋さんだとわかってびっくり。彼氏ヤにシンミリしていると思ったら女房を離縁して一人傷心の身を故郷へ帰る途中だという。事の始終をクドクドと聞かされていささか閉口、おしまいに、//女にはくれぐれも気をつけ給え」との有難き忠告をたまわった。この男後になってわかったことだが、大変なアルコール中毒で、車内規則のなんのその大きなバックにしのばせた。チューだかジンだかをぶ飲みした挙句、車中の誰彼かまわずくだを巻き出し、しまいは、車掌につ

まみ出される始末とは相なつた。しかし、翌日、酔がさめてからは神妙に昨夜の非礼を詫びてゐる姿は何とも気の毒で仕方なかった。三日間の長旅ではせまい車内のこととて、大概の乗客と仲良しになる。粋なマダム風の室内装飾家、朝鮮から帰還の陽気な軍曹、いかにもお人好しの老夫婦、夏期休暇で旅行を楽しんでいる若い三人連の学生、派出な身なりのフーテン女、ロイドメガネの少壮銀行家等々さながら社会の縮図である。これ等の人々が演ずる演出抜きの生活劇を見るだけでも退屈は感じない。これに較べると車窓を走り去る外の風景など全々つまらない。事実、ネブラスカ州を横断した時なぞ、陽が出てから沈むまで全く同じ風景で、荒涼たる原野がまるで映画で同じフィルムを何度も何度も繰返しまわっているのを見ているような醋覚をあたえる。それはあたかも、この列車の行き着く所に一人人間が住んでいるのかどうかを疑わせるような。汽車がシカゴにあと僅かという頃になって三等車の乗客の中に一人の日本人が居ることを発見した。聞けばほぼ同じ頃日本を發つてきたという。しかもマディソンからすぐ近くのミルウォウキーの大学に留学の為とか。但し、このお嬢さん、頭ばかり良

くて、人間味をどこかに置き忘れてきたようなタイプとお見受けした。お互いに儀礼的な域を越すことなしにサヨナラをしたが何等惜し気を感じなかった。シカゴに着いた。ニューヨークに次ぎアメリカ第二の大会のなんと汚ないことよ煤煙でよごれた建物がやたらにその丈の高さだけを競って林立している。ここは建築的に興味のある建物が多くある所と聞か、この車窓からの眺めでは、能のないセメントと石と鉄鋼の出鱈目な連続に過ぎないではないか。マディソンへの汽車の連絡を待つ間四時間程街を見学したが、この第一印象をくつがえす何物をも見出さなかった。シカゴとマディソンとを結ぶローカル線がいよいよ動き出したのは定刻を三〇分も過ぎた夕方の七時、あの大陸横断列車と較べると一段と落ちる車である。だいたいこの国の鉄道企業は斜陽企業の最たるもので、貨物運輸がその収入の大部分であり、客車は全々の出血サーヴィスだとのこと。そのせいか車掌の愛想がよくない。この車が発車して間もなく、といつても分別盛りの立派な身なりの男だが、この一年間の在米生活中で自分が日本人である為にいやな思いをさせられた唯一の

アメリカ人だ。座りこむといきなり、お前はどこか来たか？と聞いてきた。どうも様子がおかしい。最初から猛烈な敵意を含んでいる。奴ごさん、俺はF・B・Iの者だが、と聞いて一枚の証明書をちらっと見せろと読めまいとたかをくくったのだからうがうはいかないよ。その証明書たるや、どここのトランプクラブのそれで、F・B・I（連邦警察官）などとは真赤な嘘。ところが相手は相当飲んでる様子だし、最初からイヤガラセが目的である以上、ここで偽の証明書であることを指摘したってなんの効果もあるどころかかえって事態を悪化させるばかり、なんとも情ない話だが、じっと黙って我慢するより他ない。その後はありとあらゆる悪口や雑言をあげせかけてきた。勿論ひどい俗語の連続で喋りまくるので全部が全部理解出来たわけではないのがかえって幸いした。もつぱら馬の耳に念仏式に聞き流したが、内心はいたっておだやかでなかった。車内のまばらな乗客も聞えるくせにちっとも助けてくれようともしない。畜生このアメ公め！とこの時ばかりは、アメリカ人全部が憎くて仕方なかった。シスコでのいがい経験とい

い、これといい、一体アメリカには正常な人間が居るのかしらと疑わずにいられない。そしてシスコで出港してゆく船を見た時よりも更に烈しい故郷心は、親兄弟、友人知己を懐しむ情が湧いてくる。アメリカなんて来るんじゃないなかったときえ真剣になって考えた程である。（ここでちょっと訂正しておきたい。以上のところ、我がアメリカ印象記は悪いこととの連続で諸君もきつと首をかしげておられることと察します。ここに書いたことは全部本当のことで少しの誇張もしてないつもりで、まったくんだ第一印象でした。ところが、この一年を通じてみて、現在の我がアメリカ観は大部変わっています。やはり悪くない所です。他の日本人留学生に伺ねてみても自分のような悪い第一印象を受けた人は一人も居ません。よくよく運が悪かったのでしょう。ですから以上のことだけでアメリカ全体を判断することのない様に。ただアメリカ又はアメリカ人について、なんでも一〇〇点満点を与える人が居るとしたら、そんな人にはこの経験記は、そうでないという資料としていくらか意味があると考えます。）汽車がマディソンに着いたのはすでに一〇時に近くな

野郎は先程から車中のバーに飲みに行つて戻つて来てない。この隙とばかり車が完全に止まる前にとび降りる様にして下車し、一目散に客待ちのタクシーに乗込んでしまったもんだ。シスコからの長距離電話で前もって、これから先ずお世話になる老婦人に、マディソンに着き次第早速電話をする約束してあったのに、この時はそれどころでなかった。そんな心の余裕は一片も残っていない。なんでもかでも早くこの場から逃がりたいの一心であつた。タクシーが動き出すまでの間までもどかしく感じられる程に。車が動き出してからは、やっといくらか落着きを取り戻す。車は目抜き通りを走り過ぎる。この夏の宵を恋人の腕をとって散策を楽しむ二人連れがやたらに目につく。若き女性のほとんどが派出な格子縞の半パンツを着用しているのが変に印象に残る。それにしてもこの街の感じは、東京でいったらどんな場所にあたるかな？勿論銀座でもなし、池袋のそれでもない。それ等より全々地味な感じである。もつとも商店のほとんどが午後六時頃には閉店してしまふせいでこう淋しげに見えるのだろうか。もうすぐお目にかかるお婆さんとは一体どんな方なのかな？等々と考えているうちにやっ

家に着く、ここは、夜目にも、住宅地域とわかる静かなところである。ミセス・ホップスとの対面はまことに感激的であった。その夜、長旅の疲れにも拘らず、よく眠れなかったことは言うまでもなかった。いよいよ、翌日から新しい生活が始まる！

◎ウィスコンシン州府マディソン

人口一〇万の中流都市、すぐお隣のミルウォーキーは社会人野球の世界選手権が行なわれる都市として日本人なら誰でも知っている名前だと思えます。人口はマディソンの二倍の二〇万で、ずっと賑わっているようですが、兎に角、州府はこのマディソンです。だいたいウィスコンシン州は全米屈指の酪農州として有名なくらいですから、その州府もいって田園趣味に富んだ美しい土地です。大学が唯一最大の企業といつてよいくらいに、およそ興業化されていないところで、それだけにこの住民は大学を非常に誇りにしており、従って我々外国からの留学生にも親切です。

ウィスコンシン州は湖が沢山あるのも有名です。なにしろ大小合わせて一、〇〇〇近くもあるとのこと、マディソンもこの例にもれず至るところに美しい湖があります。こう

いう土地柄のせいか、人心はまことに隠健で人種の偏見は皆無といつてよいでしょう。それだけに我々にはとても住み良いところで、マディソンだけでも外国人留学生は約八〇〇人おり、そのうち、日本人はインドの十六〇〇人に次いで二位の七〇〇人程来ています。そのほとんどが大学院が研究室で仕事をしておられます。奥田元校長の息子さんで旧姓天野先生の御主人も只今当大学で仕事をしています。彼氏、車なんか持っていてなかなか羽振りよい生活をしています。もっとも、この

国で車を持つことは、それ程むずかしい事ではありませんがね。事実日本人留学生の半数が家用車を持ち廻しておるくらいです。話は余談になりますが、ここでは、ガールフレンドを作るには車を持っていることが不可欠だとのこと。さもないと女の子の方でんでんで相手にしてくれないと聞きます。その為だからではありませんが、私も出来るだけ早く一台手に入れたいと秘かな念願を抱いている次第です。自動車は広く普及しているだけに、どこにいても道路だけは飛び切り上等です。但しいくらスピードを増してもすこしも危険な感じを抱かないのがかえって害となつて、ひどい交通事故が後を絶たず、一つの

大きな社会問題となっています。もう一つのアメリカ人共通の悩みはなんととっても物価高なことです。一ドル三六〇が正規の為替レートですが、ここでは、一ドルがちょうど一〇〇円程の価値しかありません。例えば理髪料金は一様に一ドル七五セントですから、さしずめ日本での一七五円見当にあたるわけです。しかも日本での入念なサーヴィスに較べて、この国でのそれはてんでぶつきら棒です。人間の労働賃金が非常に高い為、あまり丁寧なサーヴィスを期待する方が無理なのかも知れません。その為でしょう、この国ではなんでもかでも自動販売機が人間の代りになります。勿論バスなどでも運転手が一人で二役をしていますから、あの女車掌の甘い声になれている我々日本人にはなんととも味気ありません。

又アメリカの庶民生活に密接な関係のある存在に薬屋（ドラッグストアと呼ばれている）があります。ここは薬は勿論のこと、日用雑貨品を買うところであり、雑誌、文房具を購入するところであり、更にカウンターで食事がとれるところなのです。チップの必要がないのでゲルピンの学生達には人気のある場所の一つです。給仕はだいたい若い女の

子でして、この看板娘の可愛い店は一日中若い男性の客で賑わうといった寸法、洋の東西を問わずこの道だけはどうも同じようです。

◎アメリカ人気質

といっても、この国は御承知のように広大な国で北と南とは、氣候風土といったものが全く異なっており、従ってそこに住む人間の気質もさまざまであり、一口にアメリカ人気質を云々することは、不可能なことです。ですからここでは私の経験した範囲内での感想ということにしておきます。先ず非常に友好的であることに男同士であれば、一言二言口をきいただけで、あたかも一〇年の知己のような間柄になります。そこへゆくと女性は少々お高いといった感じがしますね。でもこれはいたし方がないのでしょう。日本に来る観光客や舶来映画などから受ける印象とは全然異なり、実際の彼等の生活態度は質実といえます。それに働く時は真面目に働き、遊ぶ時には、徹底的に遊ぶという気質で、その中間的な行き方の人間はあまりないようです。例えば、学生達ですが、彼等の多くは、昼食事でも、片手に計算尺をにぎり、あるいは、眼で教科書を追って程の猛勉強(試験のな

い時でも)をしています。週末ともなると、それぞれの女友達と手に手をとって遊び歩く者あり、パーティで大酒を飲んで朝方まで騒ぎわめく連中もあるといった寸法です。これにて、月曜の授業に遅れる者はほとんどおらず、皆ケロリとした顔で出席します。

実に驚くべきエネルギーというよりほかありません。アメリカの若者は小さい頃から独立精神を教えこまれるのでしょうか、徹底した自力本願です。たとえ、金持の子弟であろうとも夏休みなどにはアルバイトをして自分で学費を稼ぎ出します。こんなくらいですから金銭に関しては、大変こまかい神経をもっておりますし、又すぐ金のことを口にします。とかく金のことを口にするのを極力嫌うか避けたがる我々日本人の感情はとても彼等には理解出来ないでしょう。

こんな具合ですから、隣近所の人に頼まれてちょっとした手伝いをしてあげた場合でも必ずそれ相当の礼金を出すし、又もう方もごく当然のこととして受け取るわけですが、これはどうも僕には苦手です。しかしその礼金を受け取ることを断ったりすると目丸くして驚き、一体どうして正當な謝礼金を断わるのか? と問われる有様です。こうし

てみると、僅かな謝礼を金で受け取るとも恥かしいと感ずる我々の方がかえってまともでないような気がしますが如何でしょうか? こうした点でも彼等はよく割切った考え方をもっています。

二伸、ウィスコンシン大学について書くことはと沢山あるのですが、実は今、住込みで或るキャンブ(夏の林間学校)でバイトをしていますのであまり思うような速度で手紙も書けない始末です。

(新制五期)

(10頁よりつづく)

おりますが、幸か不幸か組合員ですので、一七二日に及ぶストライキをしております。色々勉強になりました。一七二日のストライキで感じたことは、本当に自分が不勉強だったということ。黨員でなくてもやはり世の中の機構をハッキリとつかみとっておく必要があるし、それを知らなくてはいつのまにかあらゆる方向に流されてしまっているということもあり得るのです。こんなに長期のストライキを経験しようとして出来ることではありませんので、この機会を自分にとってプラスになるよう努力したいと思っています。まずは乱筆にて

第十期卒業「B組」

西川 仁

竹村先生を担任とし、五十二名をもってなる我々のクラスは、卒業後三回目のクラス会を持った。一回目は、学校で二回目は、戸外で三回目は、母校の図工室で行った。毎回出席率は、上々で三回目は、四〇名の多数に及んだ。会は、ごく質素なものならべられていたが、ひさしぶりに皆の顔を見ると、又高校時代の雰囲気もどつてくるから不思議である。さて二年後の今日クラスメートは、どう変化したであろうか、男性は、ほとんど全員が学生のため在学中とはほぼ同じであった。女性は、半数が就職しており、二年という短い歳月であるが、だいぶキレイになり服装が派手になっていった。しかし外面は、ともかく、全員が非常に落着いたというのが先生のお言葉である。当日は、午後一時から三時までの予定であったが、つい／＼伸びて六時になってしまった。在学中には、よくフォークダンスの会を開いてクラスの親睦をはかったものだが、その雰囲気がよみがえってきたせいである。最初の固さもふぐれて、皆話に夢中になっていた。あたりが暗くなりかけたころ男女数名で個々のグループを作り、積る話をするために暗くなりかけた新宿へと散っていった。

(19頁よりつづく)

コーシヤルはこの位にしてちよつと一言。

卒業生の皆さん文化祭の練習にたまたま顔を出して下さい。そして積極的に各クラブに首をつっこんで下さい。それを観迎しないわけがありませんか。年下の者が初めて会った先輩に気易く話しかけるのはむづかしいのです。でもその反対ならばと考えるのは年下の者の身勝手さかもしれません。ともかく現役は卒業生のクラブ活動協力を両手をひろげて待っているという事を声大にここに強調し結びと致します。

(21頁よりつづく)

割目の間から突然山頂のそびえるのがみられた。

頂上に立つ。眼下は一面の雲の海。たゞ永田岳への雄大なスロープが岩と笹ささとに斑まだらになって千切れとぶガスのなかに見え隠れするばかりであった。奄美あまみも沖繩もみえない。

私は翌日トロッコでもう一度伐採場まで往復した。そしてさらに島の南端、バナ、とパ、イアの林にうづまる尾ノ間温泉おんだに泊るつもりである。

(一九五九年 夏)

課せられたる課題

—自治会活潑化—

下川 浩

今年こそは……と少々大胆な計画を実行したが、結局は委員の責任感のなさで来学期に持越しと皮肉な結果に終わってしまった。

自治会の役員を従来の自治委員の間の互選でなく、生徒会の会員全員による直接選挙制にせよとの新入生の希望や上級生の声をいれて、少しは自治会に対する関心が高まるだろうかと委員会にかけてみたのだが、予期に反する低調さでうやむやに消えてしまいそうだ。

要するに自治会に与えられた課題でさしあたって今最も重要なのは勿論自治会の活潑化であるが、そのためにそういう気運が生徒の側から盛り上ってくるのを待つのが正當か、それとも委員会の方から積極的に働きかけてするのが適當か、その問題をどうするかが先決問題である。無論私は前者を正當と見るがその為に委員会の方でも色々働きかけるのが良いだろうと様々試みるが、今のところ、それがからまわりば

かりで苦勞するのは委員長ばかりというありさま。幸に一学期末の生徒総会には正規のクラス自治会の時間を設けよとの意見が出て、相当反響、共鳴があったのでこれを利用して、生徒各自の自覚をよびさまし、文京の校風に清新な改革をもたらしたいと思う。

でも何といつても先立つものは委員会の出席率で、まず委員全員が相當な責任感の上に立つてみんなをひっぱらねばこの課題は果せないであろう。

(自治会委員長)

運 動 部 二 C 中 林 秀 男

我々の学校の運動部は、現在、野球、排球、籠球、庭球、卓球、蹴球、柔道、剣道、山岳、水泳などがある。この中で部員数の多いのは、卓球(八十人)庭球(六十人)である。排球蹴球などは、やっと一チームを越えるくらいで困っている。

籠球は、一学期末の一商との試合に、六点差で負け、部員一同二十三人坊主頭になり、心機一変して練習に励んでいる。

卓球は、部員が多いが、毎日練習に来る者は少なく五十人位である、又今年から昨年まであまり行われなかった準備体

操を多く行っている。六月の小石川との試合に、男子「十一対四」女子「五対一」で両方とも負けている。

庭球も部員が多いが、コートが一面しかなく活動が全部員に渡ってないようである。全日本予選ジュニアでは、個人で、東京都第六位と七位に入っている。

蹴球は独協高校との二試合に、一回目は五対三で、二回目は三対一で両方とも負けた。

排球は、男子より女子の方が強そうである。しかし男子と女子と試合すれば、やはり男子の方が強い男子の部員には、三年生が一人もいないので二年が中心になって活動を行っている。全日本予選では、日比谷と当り二対一で勝ち次の井草との試合は二対〇で負けた。

野球部も三年生が少なく一年生が多い。今学期は多くの対抗試合を行いチーム力の向上につとめ大会に望んでいる。農大付属には一二対六で負け又東海付属には一八対〇で勝った。剣道は、城北予選で早稲田に三対二で勝ち二回戦東鴨高校に負けた。個人戦では、東京予選に四回戦までいった。

柔道は、豊島高校との試合に負け又高体連では東海高校と当り完全に負けた。夏休み大いに練習に励むそうである。

水泳部は昨年成立したばかりで目下練習中。

山岳部員二十人位で今年の夏休みには、北アルプスに、二週間の縦走を行ううそうである。

このように見ると部の成績があまりよくないようであるが

各クラブともよくまとまって楽しく活動している。

(運動部長)

文 化 部

二 A 細 谷 理 乃

現在文化部は……いやに気負って書き出したがこれも各文化部長の力強い気迫が私に感じられるからこそである。

この原稿を書くに当り私は各部長にはがきを出して抱負を聞いた。折り返し来た返事は充分私を満足させてくれた。私にはここに何も書かずに文化祭には是非おいで下さいと自信をもって申し上げたい。

美術・演劇は文化祭の花だがかなり期待されても決して重荷ではあるまい。英語、書道、写真、生物、物理では目下文化祭を目指して活動中、地歴では八ミリ映画を製作するといふし、文化部では「雑木林」の中にその進歩の跡をみせている。音楽部長は健気にも「運動、文化を通じて活動している方だと思ふ」と言い切った。十月のアサヒコンクールにはぜひ良い成績を上げたいと意気盛んである。新聞部については言うまでもないが一年に有能なライターを得たとは誠に頼もしい限りである。そんな中で家庭科部はひとり母性的魅力を発揮している。文化祭にもきつと私共の味覚を楽しませてくれるだろう。

(17頁へつづく)

屋久島登高記

近藤喜代太郎

黎明、種子島の西之表港^{にしのおもて}出航、屋久島安房^{あんぼう}へ。やがて東の空が靄^{もや}蓄色にそまりはじめるとまるで紫水晶の彫刻のような屋久島が西の水平線にうかびあがる。山ばかりの島、日本アルプスを海にうつしその両端も切落したような異様な貌だ。主峰宮之浦岳はじめ、山の嶺々^{みね}がまるで鋸の歯のようにつらなる辺りにわづかの雲がわだかまるほかまったくの快晴である。太陽がのぼると水平線までいっぱいに紺青^{こんせい}を湛^たた海がキラキラと燦^{きら}めく黄金色にいろどられた。

十時すこし前汽船は海岸にちかづき舵をめぐらして岸づたいに安房へとすゝみはじめた。海はじつに美しい。あざやかな青磁色に澄みきって海底の砂や礫、貝殻までが船のつくる波のためにゆらゆら揺いで見え、真紅や青紫の小魚が閃^{ひらめ}いているのである。

安房沖に投錨すると、潮流のため船はゆるやかに回転しはじめた。太陽はすでにキラキラ照りつけ、島いっばいの蟬時雨^{せみごもり}がはるかな沖合にまでひびいてくる。はしけに乗移って上陸。安房川に架る釣橋をわたって森林軌道の起点への、いくばくもないその道すがら安房の町並のすべてが見渡される。

屋久島でもっとも大きい部落であっても数軒の日用品店、洋品店、食料品店などが軒をならべ、警察、郵便局、バス会社などがその間にはさまるだけにあった。水溜りで子供が遊んでいる。川岸に魚の骨が散っている。氷屋ののほりが簞^{たね}いでいる。しかし風光はじつに美しい。

あゝついに屋久島まできたのだと思う。「浮雲」でなだかい安房の町はあまりにも明るい陽光のもとにまるで死んだようにひろがっていた。そして沖合の汽船が長い汽笛をのこして回航してしまふと、もうなにもない。小杉谷への十六軒。軌道づたいに歩く私のまえにはしかしどれほど雄大な自然が展開されたことであろうか。深縁^{ふかえり}というにはあまりに神寂びた樹海が、みわたすかぎりの山波を覆い、正午の太陽がその褶^た々を鮮かに隈^{くま}どってはるか眼下^{がんげ}を九十九折れつゝ流れる安房川の怒濤^{どたう}が耳を搏つのである。

麓にはバナ、が実り、ガジュマルが枯葉をひろげるといふのに小杉谷は高原の気候であった。屋久島では樹令千年にみたくない杉は小杉といわれおきな価値をおかれない。安房川をはさんで険しく逼る山々がこうした小杉に覆われそこへ登る道もないと聞かされた。森林軌道は山間をうねうねと登って小杉谷にたどりつき亦うねうねと十軒ほど屋久杉伐採の現場までつゞく、まるいカブトムシのようなディーゼル機関車が数台のトロッコを曳いてゆく。ダム工事の音がする。

小杉谷での夜。岩をかむ溪流の響きと滝津漱と、下弦の月

がわずかに山波の暗黒と夜空の暗黒とをわけて、あまりにも豊堯な星の燦きが旅人をおどろかす夜。

翌朝も嘘のような快晴。はやく宿をたち宮之浦岳登頂にむかった。「一月に三十五日も雨が降る」といわれる程の屋久島に来てこのような快晴なのである。宮之浦岳は土地では八重岳とよばれるけれど文字どおり八重の嶺々が曇りあい、行っても行っても進まないようにみえる。谷間には鹿や屋久猿が棲む。主峰宮之浦岳はこうした山塊を擡ぐそびえ、その標高一九三五米、九州最高の山である。八軒ほどのぼると山のたゞずまいも高山の倂を呈しはじめた。数十米もの杉の原始林なのである。上古より名高い屋久杉の稠密な材質は海風がつくり、かくも亭々とそびえる高さは暖口の太陽の故であるという。三千年ほどの樹令に達して地響をたて、倒れ、千年もかゝって朽ちはて風化するともいわれる。事実山中にこうした倒木がみられ羊腸とつゞく山径もそれを避け、ときには潜り、ちようどうまく倒れたものは近道にも利用されていた。倒木の根元から梯でその幹にのぼり、五十米も進んで梢にたどりつき別の梯を降りると長い迂回をせつにすんだり、谷をわたったりできるのである。

十時すぎ伐採場につく。こゝでは月に数百万円の木材が搬出される。幾抱えもある材木をつんだトロッコの一台一台に人夫がのって滑車でブレーキを緊めながら何台も何台もつら

なって安房へと下ってゆく。そしてレールの軌る響きが山々谷々に響しながらいつまでもつゞくのであった。伐採場からは嶮岨な山路を攀る一方であった。林がまばらになりシヤクナゲやフメツ、ジなどの高山性灌木が茂り、鳥が啼き獸が走る。やがて花江河としられた。

花江河ちかく森のたゞずまいは何か凝ったような精微な調和をみせはじめた。深翠に苔蒸した岩枝、丸木橋、ちいさな赤い木の実、したゝって砕ける雫、皮の剥げかゝった樹木。そうしたなかを歩んでやがて黒味岳の頂がみえがくれ、花江河につく。芝生がどこまでもつゞく。花江河は灌木林のなかに割然とひらけた雪溪で、晩春雪がきえると一齋に咲競う高山植物にうづめられるのでそう呼ばれるのだと教えられた。地下水位が高いのか敷つめたような芝生とほとんど同じ高さの池がそちこちにあった。宮之浦岳へはこゝから五時間ほどで往復され、鹿や屋久猿もこの辺りに棲むのである。

一時出発。岩と茨と笹の径をのぼる。水はまったく豊富だ。径は処々で淵をつくる溪流を横ぎりつゝ横ぎられつゞどこまでもつゞいた。山々は人影はまったくない。尾根にでゝ谷にくんだり、峰について又あたらしい峰に裏切られ笹と岩ばかりの山をすゝむ。快晴だった苦なのにいづのまにか雲が湧きはじめて視界をせばめた。三時すぎ、五階建のピル程もある岩がつゝ立っている峰に登る。ちかづくくとそれは真二つに割れていてその間をすり抜けて径がつゞき、(17頁へつゞく)

同窓会名簿訂正

期級

氏名

新住所或は勤務先

現職員

築山博

八王子市子安町一の五二九

D

北田元幸

世田ヶ谷区玉川奥沢三一六七

旧職員

中屋澄子

杉並区成宗一の二三二
神奈川県藤沢市鶴沼六七〇八 富士

4

宮田典夫

渋谷区原宿一の二二一
香川県香川郡直島町鷺の松
広島市大手町八丁目高橋方
大阪府城東区古市北通三の二八公団
二団地二一三三〇

方

9

柴崎貞蔵

新宿区戸塚町三の九五八
豊島区巣鴨五の一三五八洲荘
(982)二七九七

旧1

高橋昌平

豊島区巢鴨七の一六九四
神奈川県藤沢市鶴沼六八〇三

新2

本間康雄

福岡市呉服町六三赤坂内ビル
北区上中里町一の二五

戸田豊鉄

北区岩淵町二の一七九

3

齊藤沼治

埼玉県大宮市北袋町一の二三八の二

遠藤武伴

世田ヶ谷区玉川仲町

4

池田ツルオ

三浦印刷KK
北多摩郡村山町回田二四五四 東村

2

阿部喜一

北多摩郡清瀬町下溝田 永田方
杉並区東萩町五NHK東萩寮(38)〇
〇四八

池谷淳

港区芝愛宕町一の一(43)一二三二
横浜市中区山田町一の一一一一山田
町公団アパート四三〇三

4

川上和寛

三浦印刷KK

岡村辰夫

仙台市花壇三八清秋寮

5

工藤晶巨

大阪府東淀川区瑞光通二の三五
田辺製菓瑞光寮

斉藤伸自

板橋区蓮根町一の二一

5

野口祐三

北区中里二の六 中外写真薬品KK
千代田区神田神保町一の五

鈴木義雄

横浜市神奈川区六角橋字北原 北原

5

大河内基夫

二公団住宅一五四〇六

花形弘道

荒川区尾久町四一八九〇

5

織原五男

神奈川県藤沢市鶴沼六六四(藤沢)三

福本道夫

森田昭

5

佐々木卓

三浦研究所 (71)三五二六

森田昭

六四九

5

佐々木卓

三浦研究所 (71)三五二六

森田昭

六四九

5

佐々木卓

三浦研究所 (71)三五二六

森田昭

六四九

5

佐々木卓

三浦研究所 (71)三五二六

森田昭

六四九

5

佐々木卓

三浦研究所 (71)三五二六

森田昭

六四九

5

佐々木卓

三浦研究所 (71)三五二六

— 22 —

白石 将 岩崎電気株式会社(56)三四八〇一一
 関口 一 北里研究所附属病院(44)八一七一
 中村 昌男 新宿区上落合二の七八五 本州製紙株式会社
 榎田 康男 板橋区四ツ葉町一〇三八 ニューロ
 吉野 重信 ング工業株式会社(69)三六〇五
 東京鉄鋼埠頭株式会社(64)八三一
 一三
 若井 治 東急砂利株式会社(46)九五三二、二
 四八九
 岩佐 キヨ 足立区立宮城小学校(91)三二八七
 千代田区神田同朋町二(25)二二七
 三 大和銀行
 太田 良子 新宿区原町三の八七原町住宅一の一
 〇一(42)一九八一
 花畑(川村)安代 新浜市金衛町一の二二七
 (398)一九二一
 菅原 圭子 文京区西片町一一
 砂押 勢喜子 板橋区上赤塚六九三
 染野 まさ子 豊島区千川町一の一 日本証券代行
 株式会社(67)八四五八
 中野 郁代 精密医科電機製作所(99)一七四五
 山本 治子 豊島区西果鴨一の三四九一
 森越(渡辺)洋子 東京法務局板橋出張所
 佐々木 玲子 昭和三十三年五月九日死亡
 中山 貴美子

7 A

岡村 伸一 (自宅)大阪市福島区上福島南一の八
 一 学習大経
 野村 武彦 群馬県群馬郡榛名町下室田八〇〇一
 三大陽荘太陽誘電株式会社榛名工場
 板橋区南町二六
 橋本 昇 板橋区中丸町一五永楽信用金庫管理
 課(54)五八一―一五
 山添 忠親 足立区立第十四中学校
 山田 国雄 埼玉県所沢市立柳瀬小学校
 山本 茂雄 第一通信社ラジオテレビ係
 川口 正 東京銀行
 木庭 耿子 新東亜交易株式会社食品部
 日本航空
 坂本 重喜 駒沢学院女子高校
 原色美術印刷所
 磯貝 俊明 板橋区大谷口町九四一表現社
 古川 哲夫 山洋デンキ株式会社
 森 皓助 東京地方裁判所
 吉野 和男 明治生命
 片岡 章 中野区江古田二の三九
 水上 喜与志 豊島区池袋二の一〇三九塚田アパ
 ト
 森田 治樹
 山谷 実 品川五反田四の二六
 池田 朝子 朝日生命
 中山(稲本)富子 横浜市鶴見区下吉末町五四七

- 青木(加藤)照子
東大病院臨床検査部臨床血液検査室
木村順子
墨田区隅田町三の九五九
神尾(塩畑)秀子
オンワード
菅野美代子
北区志茂町一の一六の一〇株式会社
児玉組
外山幸子
磯村産業株式会社
団 はるゑ
日本農機織維株式会社
土屋 あづみ
板橋区常盤台一の三五岸野アパート
渡辺 エミ子
東大病院臨床検査部臨床血液検査室
川口芳子
日本貿易振興会
川島敏江
(株)石井鉄鋼所
矢田幸子
巣鴨信用金庫板橋支店
伊達博
荒川区尾久町七の二四
池野洋一
港区麻生竹谷町第九朝陽寮
阿部千恵子
川崎市登戸三二七二
寺尾靖昌
豊島区西巢鴨二の二五七〇
土岐光昭
武蔵野市境上水南一一三五外六〇二〇三
- 10 D D
長谷川次郎
N P通信早大政経
入江昭夫
豊島区池袋二の一七〇一
加藤康二
静岡県清水市折戸一〇〇〇商船大学
生寮
近藤紀夫
仙台市殿橋通一二の三七瀬之口方
篠原正興
豊島区日出町二の一九九

- 関根五郎
豊島区巢鴨二の二一
谷口泰紀
杉並区高円寺三の三二五井上芳
西沢林蔵
豊島区巢鴨三の一
野村憲司
川崎市本渡田三の八二
橋本光夫
都下北多摩郡狛江町岩戸一一三七
八森啓
札幌市北二九条西八丁目福井方
11 A
十川鞆子
京都市左京区聖護院東町一山田方
C
土屋隆一
三鷹市大沢一五〇〇国際キリスト教
大学第一男子寮
F
浅川剛
横浜市戸塚区瀬谷町四八八〇
井田益彦
板橋区上板橋町五の五五六二
藤井暉雄
南米移住
- あとがき 秋もようやく深まり記録的なあの暑さは嘘のように思われる。第四号の編集を終えホッとしたところ。
本号は、当初 文京同窓生の卒業後のグループの紹介しようということであったが、空しく失敗に終り片鱗をとどめたにすぎない。途中で編集方針を変えたため恩師の近況を紹介する場がなくなってしまった。深く御詫言する。また編集部の大抵が、就職その他で参加できず悪条件のもとに進められた。積極的に御協力いただいた諸兄姉に心から御礼申し上げる。
第五号は、若い有能なスタッフによる新らしい編集内容でお送りしたいと思う。(長谷部信)
十月十一日の運動会は、皆さんの参加できる種目が用意してあるそうですから是非出席して下さい。

文京高校同窓会報第四号
紫 筍
昭和34年9月25日 発行
発行 文京高校同窓会編集部
編集 印刷所 八洲印刷株式会社

新鮮なよい品を安く 皆様のお台所へ
食品マーケット

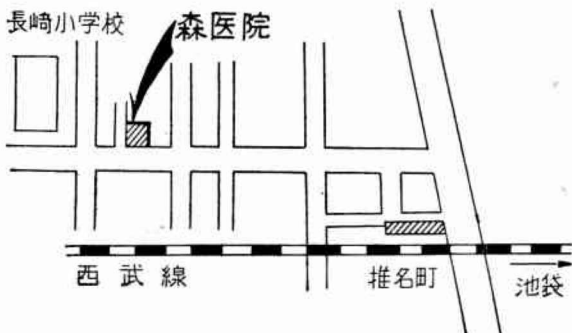
友 の 屋

(西武池袋線保谷駅前通り)
東京都練馬区南大泉町465
TEL (106) 保谷 31・336

旧制一期C組 **曇(もたい)卯之吉**

森 歯科医院

東京都豊島区長崎2丁目17番地
TEL (95) 7522



旧制一期D組
森 啓

建築設計施行

建築のことなら
なんでも無料相談
気軽にどうぞ

株式会社 清 和 組

本 社 東京都豊島区駒込6～584
(982) 5089
営 業 所 東京都千代田区神田旭町14
旭町ビル内(29) 1985
川口出張所 埼玉県川口市朝日町3～125

旧2期A組

会社取締役

秋 山 一 穂

弁 護 士 旧1期A組

渡 辺 剛 章

文 京 区 西 片 町 10
(92) 2989・7704